

1961年(昭和36年)~2004年(平成16年)

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>1961年(昭和36年)</p> <p>一、一 運輸省、羽田空港が1970年度中に処理能力の限界(発着回数が年に17万5000回)に達することを予測し、新空港の検討を開始</p>	<p>1961年(昭和36年)</p>	<p>1961年(昭和36年)</p> <p>2.15 羽田空港でILS(計器着陸装置)運用開始</p> <p>4.12 ソ連、世界初の有人衛星ボストーク1号打上げ</p>
<p>1962年(昭和37年)</p> <p>11.16 羽田空港の行詰り解決策として新国際空港建設の方針を閣議決定</p>	<p>1962年(昭和37年)</p>	<p>1962年(昭和37年)</p> <p>7.18 運輸大臣に綾部健太郎就任</p> <p>8.30 戦後初の国産旅客機「YS-11」名古屋空港で試験飛行に成功</p>
<p>1963年(昭和38年)</p> <p>7.4 綾部運輸大臣・河野建設大臣・川島国務大臣・友納千葉県知事、初の四者会談、新空港を東京湾内千葉県側とすることで合意</p> <p>8.20 綾部運輸大臣、航空審議会に「新東京国際空港の候補地及びその規模」について諮問</p> <p>12.11 航空審議会、8.20の諮問に対し、第1候補地富里村付近、第2候補地霞ヶ浦周辺、規模 滑走路4000m×2本 外3本 計5本 面積約2300ha等を答申</p>	<p>1963年(昭和38年)</p> <p>4.17 千葉県知事に友納武人就任</p>	<p>1963年(昭和38年)</p> <p>9.22 B727、羽田空港に初飛来</p> <p>10.1 羽田空港での深夜・早朝のジェット機発着禁止</p>
<p>1964年(昭和39年)</p> <p>12.18 閣議、新空港に関する基本的態度を確認、新空港建設は1970年度完成を目標 候補地についてはさらに検討 1965年度予算に所要経費を計上</p>	<p>1964年(昭和39年)</p>	<p>1964年(昭和39年)</p> <p>2.11 羽田空港C滑走路供用開始</p> <p>4.1 海外渡航自由化</p> <p>7.18 運輸大臣に松浦周太郎就任</p> <p>11.9 第1次佐藤栄作内閣発足(全閣僚留任)</p>
<p>1965年(昭和40年)</p> <p>6.2 新東京国際空港公団法公布(1966.7.7施行)</p> <p>11.18 関係閣僚懇談会、新空港を富里に内定</p>	<p>1965年(昭和40年)</p> <p>11.15 富里村反対派、耕耘機50台に分乗し千葉県庁に反対デモ、知事室に乱入</p> <p>11.19 千葉県、事前連絡不十分のまま新空港の位置内定に政府に対し不満を表明</p> <p>11.25 富里村・八街町議会、空港設置反対を決議</p>	<p>1965年(昭和40年)</p> <p>6.3 運輸大臣に中村寅太就任</p> <p>11.24 大阪空港での深夜・早朝のジェット機発着禁止</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>12.17 友納千葉県知事、佐藤総理大臣と会談、四原則に基づく県の考え方を説明</p> <p>1966年（昭和41年）</p> <p>3.4 臨時新東京国際空港関係閣僚協議会の設定を閣議決定</p> <p>3.一 3月頃から6月頃にかけて、友納千葉県知事と若狭運輸事務次官が事態の打開を図るために水面下で5～6回にわたって交渉</p> <p>6.22 佐藤総理大臣、友納千葉県知事と協議、空港面積を原案の半以下とし、下総御料牧場及び周辺の県有地を中心に民有地面積を圧縮して建設することで千葉県に協力を要請</p> <p>6.29 運輸省、三里塚の新空港設置計画を発表</p> <p>7.2 政府及び千葉県、補償対策について合意、友納千葉県知事、三里塚案了承</p> <p>7.4 「新東京国際空港の位置及び規模について」と「新東京国際空港位置決定に伴う施策について」閣議決定</p> <p>7.30 新東京国際空港公団設立、初代総裁に成田努就任</p> <p>12.12 大橋運輸大臣、空港公団に基本計画（平行滑走路2本、横風用滑走路1本）を指示</p>	<p>12.13 千葉県、運輸省に「住民対策の四原則」を提出</p> <p>1966年（昭和41年）</p> <p>2.28 友納千葉県知事、県議会で空港問題について「政府に条件提示を求めず、地元住民を説得せず、事態の推移を静観する」と所信表明</p> <p>5.18 富里・八街空港反対同盟、農地不売運動（一坪マンモス登記運動開始）</p> <p>6.25 友納千葉県知事、藤倉成田市長に新空港建設協力を要請</p> <p>6.28 三里塚新国際空港設置反対同盟結成、遠山中学校において新空港反対総決起大会開催</p> <p>6.30 芝山町空港反対同盟結成</p> <p>7.4 千葉県議会「三里塚空港建設促進決議案」を可決</p> <p>” 成田市議会「三里塚空港設置反対決議案」を可決</p> <p>8.2 成田市議会、空港設置反対決議（7.4）を白紙撤回、旧遠山地区選出議員6人は欠席</p> <p>8.25 条件派の成田空港対策部落協議会が発足</p> <p>8.27 反対同盟、一坪運動共有地登記を開始</p> <p>12.16 反対同盟、成田市天神峰団結小屋（現地闘争本部）建設（以後、成田市駒井野・天浪・東峰・木の根等逐次建設）</p> <p>12.27 芝山町議会、空港設置反対決議（7.20）を白紙撤回（町民の傍聴認められず）</p>	<p>12.28 日米航空協定改訂調印。日航、ニューヨーク以遠権獲得、世界一周路線が可能となる</p> <p>1966年（昭和41年）</p> <p>1.21 日ソ航空協定締結（1967.3.3発効）</p> <p>8.1 運輸大臣に荒船清十郎就任</p> <p>12.3 運輸大臣に大橋武夫就任</p>
<p>1967年（昭和42年）</p> <p>1.10 運輸省、新東京国際空港工事実施計画に係る公聴会開催</p> <p>1.23 運輸省、新東京国際空港工事実施計画を認可（1966.12.13申請）</p>	<p>1967年（昭和42年）</p> <p>3.2 富里村議会、空港設置反対決議（1965.11.25）を白紙撤回（これにより市町村議会の反対は皆無となる）</p> <p>8.16 反対同盟「あらゆる民主勢力との共闘」を確認。三派系全学連の</p>	<p>1967年（昭和42年）</p> <p>2.17 第2次佐藤内閣発足（全閣僚留任）</p> <p>8.1 公共用飛行場周辺における航空機騒音による障</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>10.10 新東京国際空港境界基準杭打ち（いわゆる外郭側量）実施（11.13完了）</p> <p>1968年（昭和43年）</p> <p>4.6 空港公団、条件派4団体と用地売渡しに係る覚書に調印。これにより空港用地民有地の89%（597ha）確保（反当り畑140万円、その後、田153万円、宅地200万円、山林原野115万円に決定）</p> <p>4.20 土地売渡し同意書提出者約300世帯の家屋等立入調査開始（～7.19完了、いわゆる百日調査）</p> <p>1969年（昭和44年）</p> <p>9.19 工食用道路建設工事着工</p> <p>12.16 建設省、空港公団提出の新東京国際空港建設事業の事業認定を告示（9.13申請）</p> <p>1970年（昭和45年）</p> <p>2.19 土地収用法に基づく第1次立入調査実施（5.14第2次、9.30～10.2第3次、11.14・11.16第4次、1973.5.10～11第5次）</p> <p>3.3 空港公団、千葉県収用委員会に対し第1次収用裁決（権利取得、明渡し）を申請（5.13第2次、6.30第3次、8.15第4次、11.30・12.12第5次、12.15第6次）</p> <p>3.28 新東京国際空港周辺整備のための国の財政上の特別措置に関する法律（成田財特法）公布、施行</p>	<p>支援始まる</p> <p>10.10 反対同盟、外郭測量阻止闘争を展開</p> <p>11.14 今井空港公団総裁、大橋運輸大臣と共に反対同盟の戸村委員長、石橋・瀬利両副委員長と座談会（朝日新聞社主催）</p> <p>1968年（昭和43年）</p> <p>2.26 反対同盟主催の「三里塚空港実力粉碎現地総決起集会」で三派系全学連と機動隊が衝突（3.10、3.31の集会でも衝突）</p> <p>4.20 百日調査に対し、反対同盟、連日の阻止闘争を開始</p> <p>1969年（昭和44年）</p> <p>8.18 下総御料牧場閉場式、反対同盟、粉碎闘争を展開</p> <p>1970年（昭和45年）</p> <p>2.19 反対同盟、第1次強制立入測量阻止に向け同盟休校を含む家族総ぐるみの闘争を組む（～20）以後、第2次～第5次の間それぞれ阻止闘争を継続）</p>	<p>害の防止等に関する法律（騒防法）公布、施行</p> <p>8.3 公害対策基本法公布、施行</p> <p>10.8 第1次羽田闘争</p> <p>11.12 第2次羽田闘争</p> <p>11.25 運輸大臣に中曽根康弘就任</p> <p>1968年（昭和43年）</p> <p>6.10 大気汚染防止法・騒音規制法公布（12.1施行）</p> <p>1969年（昭和44年）</p> <p>2.9 ジャンボジェットB747初飛行</p> <p>3.2 超音速旅客機コンコルド初飛行</p> <p>3.25 第1次空港整備5カ年計画閣議決定</p> <p>1970年（昭和45年）</p> <p>1.14 第3次佐藤内閣発足、運輸大臣に橋本登美三郎就任</p> <p>2.5 大阪空港3000m滑走路完成、供用開始</p> <p>3.31 赤軍派学生による日航機よど号ハイジャック事件発生</p> <p>4.17 空港整備特別会計法公布、施行</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>12.26 千葉県収用委員会、第1次収用裁決申請分に対する収用裁決（権利取得の時期及び明渡しの期限 1971.1.31）</p> <p>12.28 建設省、新東京国際空港第1期建設事業について特定公共事業認定を告示（11.4申請）</p> <p>1971年（昭和46年）</p> <p>2.22 第1次代執行（～3.6、6件6筆）</p> <p>2.27 空港公園、騒防法に基づく学校等の騒音防止工事助成開始</p> <p>6.12 千葉県収用委員会、緊急裁決の申立てに対する裁決（権利取得の時期及び明渡しの期限8.12）（2.3申立て）</p> <p>7.26 空港公園、農民放送塔と地下壕を仮処分により除去（～30）</p> <p>8.19 空港公園、パイプラインルートを公表、千葉市に市内パイプラインの敷設について協力を要請（8.25四街道町・佐倉市・酒々井町・富里村・成田市に要請）引続き関係市町村・議会・住民にパイプライン敷設に係る説明会を実施し、協力を要請（～1972.2中旬）</p> <p>9.16 第2次代執行（～20、5件6筆）</p> <p>10.1 千葉県、住宅騒音防止工事助成開始</p> <p>12.1 新東京国際空港騒音対策委員会設置</p> <p>1972年（昭和47年）</p>	<p>9.30 反対同盟、第3次強制立入測量阻止闘争（通称、三日戦争）で糞尿弾等を駆使（～10.2）</p> <p>1971年（昭和46年）</p> <p>2.22 反対同盟、長期同盟休校・家族総ぐるみで第1次代執行阻止闘争を開始（～3.6）</p> <p>5.12 反対同盟、芝山町岩山に第1鉄塔（30.82m）を構築</p> <p>7.26 反対同盟、成田市駒井野農民放送塔と地下壕撤去阻止闘争を組み、逮捕者・負傷者多数（～30）</p> <p>9.16 反対同盟、第2次代執行阻止闘争を開始。東峰十字路で機動隊員3名死亡</p> <p>9.20 大木よね宅代執行、第2次強制収用阻止闘争で逮捕者・負傷者多数</p> <p>10.1 反対同盟青年行動隊員三ノ宮文男氏抗議自殺</p> <p>12.8 東峰十字路事件で青年行動隊員ら逮捕される（逮捕は1972.10まで続く）</p> <p>1972年（昭和47年）</p> <p>1.14 千葉市議会特別委員会、パイプライン埋設賛成を強行採決</p> <p>3.12 反対同盟、芝山町岩山に第2鉄塔（62.26m）を構築</p>	<p>6.5 運輸政策審議会発足</p> <p>8.21 運輸省、羽田空港の発着回数が処理能力を超えたとして内外航空会社に発着回数1日460回を限度とする等の緊急指示</p> <p>1971年（昭和46年）</p> <p>3.18 羽田空港B滑走路延長工事完成</p> <p>5.15 日本国内航空と東亜航空合併、東亜国内航空（株）設立</p> <p>7.30 全日空B727、岩手県雫石上空で自衛隊機F-86Fと接触、墜落</p> <p>1972年（昭和47年）</p> <p>3.17 第2次空港整備5カ年計画閣議決定</p> <p>4.27 羽田・大阪両空港、深夜・早朝の飛行禁止</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>8.3 今井空港公団総裁、佐々木運輸大臣にパイプライン工事の遅れで年内開港は難しいと報告、併せて航空燃料を暫定的に千葉及び鹿島から成田市土屋まで鉄道輸送すること(以下「暫定輸送」という)について検討する旨報告</p> <p>8.14 佐々木運輸大臣、暫定輸送措置を承認、1973.3開港目途を指示</p> <p>8.19 東関東自動車道の千葉～成田間(29.6km)全通</p> <p>11.25 京成電鉄(成田～空港間)完成</p> <p>12.21 今井空港公団総裁、1973.3の開港を断念すると発表</p> <p>1973年(昭和48年)</p>	<p>8.10 荒木千葉市長、空港公団にパイプライン埋設工事の中止を要請</p> <p>1973年(昭和48年)</p> <p>3.28 佐原市議会、暫定輸送に反対決議(その後、鹿島・神栖・潮来町議会が反対決議)</p>	<p>5.30 テレアビブ国際空港(イスラエル)で日本赤軍乱射事件発生</p> <p>6.11 田中角栄通産大臣、日本列島改造構想を発表</p> <p>7.1 運輸大臣通達「航空企業の運営体制について」(「45・47体制」いわゆる航空憲法成立)</p> <p>7.7 第1次田中角栄内閣発足、運輸大臣に佐々木秀世就任</p> <p>11.14 運輸省、1973.1より羽田空港乗入れ便数凍結を発表</p> <p>1973年(昭和48年)</p>
<p>4.30 4000m滑走路完成(1969.9.20着工)</p> <p>1974年(昭和49年)</p> <p>3.27 空港公団、騒防法に基づく住宅の騒音防止工事の助成開始(間接補助方式、1977.4.1からは直接補助方式)</p>	<p>1974年(昭和49年)</p>	<p>7.21 パリ発北回り日航B747にハイジャック事件発生、7.24ベンガジ空港で機体爆破</p> <p>1974年(昭和49年)</p> <p>1.11 運輸省航空事故調査委員会発足</p> <p>2.27 大阪地裁「大阪空港公害訴訟」(第1次～3次)について 午後10時から翌朝7時までの飛行差止め 過去の損害賠償の一部認容 将来の損害賠償を却下する旨判決</p> <p>4.15 大阪国際空港周辺整備機構発足</p> <p>4.20 日中航空協定締結(5.24発効)</p> <p>6.19 航空の危険を生じさせる行為等の処罰に関する法律公布(7.12施行)</p> <p>8.13 航空審議会、関西新国</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>1975年（昭和50年）</p> <p>6.30 暫定パイプライン完成（1973.12.21着工）</p> <p>8.29 「航空燃料暫定輸送の輸送期間を輸送開始後3年間とする」旨閣議決定</p>	<p>1975年（昭和50年）</p> <p>7.20 千葉市民、本格パイプライン工事差止めの1万人マンモス訴訟を提起</p>	<p>際空港の規模と位置につき「泉州沖の海上とし4000m滑走路2本、3200m滑走路1本」を答申</p> <p>1975年（昭和50年）</p> <p>5.1 長崎空港開港（日本初の海上空港）</p> <p>8.9 日本アジア航空（株）設立</p> <p>11.27 大阪高裁「大阪空港公害訴訟（第1次～3次）」について 午後9時から翌朝7時までの飛行差止め 過去の損害賠償の一部認容 将来の損害賠償を一部認容する旨判決</p>
<p>1976年（昭和51年）</p> <p>1.8 新東京国際空港について第1種区域、第2種区域及び第3種区域を指定する告示（運輸省告示第9号、第1種区域85WECPNL）</p>	<p>1976年（昭和51年）</p>	<p>1976年（昭和51年）</p> <p>10.1 第3次空港整備5カ年計画閣議決定</p> <p>12.24 福田赳夫内閣発足、運輸大臣に田村元就任</p>
<p>1977年（昭和52年）</p> <p>3.15 旅客ターミナルビル完成（1970.4.25着工）</p> <p>5.6 空港公園、妨害鉄塔（2基）仮処分により撤去</p> <p>11.28 新東京国際空港の供用開始期日を1978.3.30とすることを告示</p>	<p>1977年（昭和52年）</p> <p>4.17 反対同盟主催の鉄塔決戦全国総決起集会に三里塚闘争史上最大の動員</p> <p>5.6 反対同盟、鉄塔撤去抗議集会とデモを行い、逮捕者・負傷者多数（～8）（東山薫氏5.10死亡）</p> <p>5.9 芝山町長宅前臨時警官詰所、新左翼党派に襲われる（警察官1人死亡、5人重軽傷）</p>	<p>1977年（昭和52年）</p> <p>9.28 パリ発南回り日航DC-8にハイジャック事件発生、グッカ空港に強制着陸、10.3アルジェ空港で解放、服役中の日本赤軍ら6人を国外へ釈放</p> <p>11.28 運輸大臣に福永健司就任</p>
<p>1978年（昭和53年）</p> <p>2.5 空港公園、芝山町横堀要塞鉄塔（第二要塞）について航空法違反の警告及び告発（第1次）、2.8撤去</p> <p>3.25 空港公園、横堀要塞鉄塔を航空法違反で告発（第2次）、3.28撤去</p> <p>3.26 過激派、空港内に乱入、管制室を占拠、室内の機器等を破壊</p>	<p>1978年（昭和53年）</p> <p>2.5 反対同盟、横堀要塞建設開始</p> <p>3.25 反対同盟、横堀要塞に鉄塔建設</p>	<p>1978年（昭和53年）</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>3.28 新東京国際空港関係閣僚会議、開港日延期を決定</p> <p>4.20 特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法（騒特法）公布（10.19施行）</p> <p>5.13 新東京国際空港の安全確保に関する緊急措置法（成田新法）公布、施行</p> <p>5.20 新東京国際空港開港（乗入れ航空会社29カ国34社）</p> <p>10.31 石油パイプライン事業法に基づく工事計画認可（9.29申請）</p>	<p>4.17 反対同盟、逮捕者の全員釈放 開港延期と二期工事凍結 成田新立法の撤廃と機動隊の撤退を条件に「話し合いは拒まない」と態度決定</p> <p>5.10 千葉日報主催で戸村委員長と福永運輸大臣が会談、反対同盟の3条件で平行線</p> <p>5.16 木の根団結小屋及び岩山団結小屋に成田新法を適用</p> <p>10.16 反対同盟幹部と福田内閣の道正邦彦官房副長官が水面下で初めての会談</p>	<p>9.21 日本貨物航空(株)設立</p> <p>12.7 第1次大平正芳内閣発足、運輸大臣に森山欽司就任</p>
<p>1979年（昭和54年）</p> <p>2.1 空港公団、民家全室防音工事着工</p> <p>3.31 成田財特法の一部改正（法律の有効期限を10年延長1989.3.31までとする）公布、施行</p> <p>7.10 新東京国際空港について第1種騒音区域を指定する告示（85から80WECPNLに拡大）</p> <p>10.11 開港以来の国際線航空旅客数1000万人達成</p>	<p>1979年（昭和54年）</p> <p>6.15 反対同盟と政府側で水面下の会談、加藤副長官と島寛征反対同盟事務局次長との間で「二期工事を凍結し話し合いで解決すること、土地収用法に基づく一切の強権発動をしない」等の内容を含む覚書に調印</p> <p>7.19 読売新聞の水面下の交渉に関する記事で混乱した反対同盟、話し合いを拒否。政府との交渉の事実をも否定</p> <p>11.2 戸村一作反対同盟委員長死去（11.11追悼集会）</p>	<p>1979年（昭和54年）</p> <p>7.5 初の民間用ジェット機訓練飛行場下地島飛行場開港</p> <p>11.9 第2次大平内閣発足、運輸大臣に地崎宇三郎就任</p>
<p>12.28 騒特法第11条第2項に基づく政令公布（県、市町村が騒音区域内で行う施設整備への空港公団の財政援助）</p> <p>1980年（昭和55年）</p> <p>12.2 「航空燃料暫定輸送の期限を航空燃料パイプライン供用開始の時期（1983.12末まで）とする」旨閣議決定</p>	<p>1980年（昭和55年）</p> <p>6.15 反対同盟と政府側で水面下の会談、加藤副長官と島寛征反対同盟事務局次長との間で「二期工事を凍結し話し合いで解決すること、土地収用法に基づく一切の強権発動をしない」等の内容を含む覚書に調印</p> <p>7.19 読売新聞の水面下の交渉に関する記事で混乱した反対同盟、話し合いを拒否。政府との交渉の事実をも否定</p> <p>11.2 戸村一作反対同盟委員長死去（11.11追悼集会）</p>	<p>1980年（昭和55年）</p> <p>7.17 鈴木善幸内閣発足、運輸大臣に塩川正十郎就任</p> <p>9.1 航空審議会、関西新空港計画について滑走路計画 空域飛行経路計画 建設工法 空港施設計画を答申</p>
<p>1981年（昭和56年）</p>	<p>1981年（昭和56年）</p> <p>4.24 反対同盟、松井航空局長と会談（事業認定の期限等について議論）</p>	<p>1981年（昭和56年）</p> <p>4.12 米スペースシャトル初飛行</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>5.14 運輸省航空局に航空機落下物対策委員会設置</p> <p>1982年(昭和57年)</p> <p>3.30 新東京国際空港について第1種騒音区域を指定する告示(80から75WECPNLに拡大)</p> <p>11.22 千葉県、騒特法に基づく新東京国際空港周辺地域における「航空機騒音対策基本方針」を決定</p> <p>12.7 本格パイプライン(B系)施設完成(1979.5.15着工)</p> <p>1983年(昭和58年)</p> <p>3.1 航空機落下物事故保険制度発足</p> <p>8.8 本格パイプライン(B系)の供用開始、暫定輸送は8.6に終了</p> <p>1984年(昭和59年)</p> <p>2.7 本格パイプライン(A系)施設完成(1979.5.15着工)</p> <p>6.23 開港以来の国際線航空旅客数5000万人達成</p> <p>8.1 本格パイプライン(A系)供用開始</p> <p>1985年(昭和60年)</p> <p>4.12 発射式火炎弾による成田空港襲撃事件発生</p>	<p>5.1 芝山鉄道(株)設立</p> <p>1982年(昭和57年)</p> <p>2.9 反対同盟の石橋委員長代行・内田行動隊長、政府側との水面下の折衝をめぐり、同盟に辞表を提出</p> <p>12.16 反対同盟青年行動隊、事業認定粉砕の裁判闘争と一坪再共有運動を決定</p> <p>1983年(昭和58年)</p> <p>3.8 反対同盟、北原派と熱田派に分裂</p> <p>1984年(昭和59年)</p> <p>11.13 新左翼党派による航空燃料パイプライン破壊事件発生、A系・B系とも送油中止</p> <p>11.21 東峰裁判論告求刑、懲役10年など求刑</p> <p>1985年(昭和60年)</p>	<p>12.11 第4次空港整備5カ年計画閣議決定</p> <p>12.16 最高裁「大阪空港公害訴訟(第1次～3次)」について 夜間飛行差止め及び将来の損害賠償却下 過去の損害賠償一部認める旨判決</p> <p>1982年(昭和57年)</p> <p>2.9 福岡発東京行日航DC-8、着陸直前羽田沖に墜落</p> <p>6.4 日米航空交渉、3年間の暫定取決めで合意</p> <p>11.27 第1次中曽根康弘内閣発足、運輸大臣に長谷川峻就任</p> <p>1983年(昭和58年)</p> <p>8.13 運輸省、日本貨物航空に定期航空運送事業(太平洋線の貨物専用便)の事業免許公布</p> <p>9.1 ソ連空軍機による大韓航空機B747撃墜事件発生</p> <p>1984年(昭和59年)</p> <p>2.4 大阪地裁「大阪空港公害訴訟(第4次～5次)」で和解成立</p> <p>10.1 関西国際空港(株)設立</p> <p>11.1 運輸大臣に山下徳夫就任</p> <p>1985年(昭和60年)</p> <p>4.30 日米航空交渉合意、国際線複数社制となる</p> <p>8.12 羽田発大阪行日航B747、群馬県御巢鷹山の山中に墜落</p> <p>9.10 運輸大臣、運輸政策審議会に「今後の航空企業</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>1986年（昭和61年） 6.1 千葉県、関係市町が行う4000m・平行滑走路に係る騒音区域に挟まれた地域の住宅防音工事への補助を開始</p> <p>11.26 空港二期工事着工</p>	<p>1986年（昭和61年）</p> <p>10.4 千葉地裁、東峰十字路事件一審判決</p>	<p>の運営体制について」諮問</p> <p>12.17 閣議で「航空憲法」の廃止了承</p> <p>12.28 運輸大臣に三塚博就任</p> <p>1986年（昭和61年） 6.9 運輸政策審議会、先の諮問「航空企業の運営体制」（1985.9.10）について答申</p> <p>7.22 第3次中曽根内閣発足、運輸大臣に橋本龍太郎就任</p> <p>11.28 第5次空港整備5カ年計画閣議決定（成田空港の概成を図る）</p>
<p>1987年（昭和62年）</p>	<p>1987年（昭和62年）</p> <p>4.4 反対同盟熱田派、平行滑走路延長上の横堀に16mの鉄塔建設</p> <p>9.4 反対同盟北原派から用地内農民が中心となり小川派を結成</p> <p>11.27 木の根柢を除去（成田新法の初適用）</p>	<p>1987年（昭和62年） 1.27 関西国際空港建設着工</p> <p>9.14 運輸省「海外旅行倍増計画」（テン・ミリオン計画）決める</p> <p>11.6 竹下登内閣発足、運輸大臣に石原慎太郎就任</p> <p>11.18 日本航空が民営化</p>
<p>1988年（昭和63年） 3.19 開港以来の航空旅客数1億人達成</p> <p>11.30 第2旅客ターミナルビル建設工事着手</p>	<p>1988年（昭和63年）</p> <p>9.21 千葉県収用委員会小川会長、新左翼党派に襲われ重傷</p> <p>10.24 千葉県収用委員会委員全員が辞表提出</p>	<p>1988年（昭和63年）</p> <p>7.2 羽田空港沖合展開、新A滑走路供用開始（1日25便増便）</p> <p>7.20 新千歳空港開港（第1期）</p> <p>12.27 運輸大臣に佐藤信二就任</p>
<p>1989年（平成元年） 3.31 成田財特法の一部改正（法律の有効期限を5年延長1994.3.31までとする）公布、施行</p>	<p>1989年（平成元年）</p> <p>3.26 反対同盟熱田派、事業認定の失効を主張したパンフレット「時間のバクダン」を発行</p> <p>8.1 わが国初の航空科学博物館、千葉県芝山町にオープン</p> <p>8.29 成田新法に基づき団結小屋10カ所に対し使用禁止命令（～9.19）</p> <p>11.16 反対同盟熱田派、運輸省に対し「公開質問状」を送る。その後「公</p>	<p>1989年（平成元年）</p> <p>6.3 宇野宗佑内閣発足、運輸大臣に山村新治郎就任</p> <p>8.10 第1次海部俊樹内閣発足、運輸大臣に江藤隆美就任</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>1990年（平成2年）</p> <p>9.28 開港以来の航空旅客数1億5000万人達成</p> <p>11.6 開港以来の航空機発着回数100万回達成</p> <p>1991年（平成3年）</p> <p>1.18 開港以来の国際線航空貨物取扱量1000万トン達成</p> <p>3.19 JR及び京成電鉄、成田空港駅へ直接乗入れ</p>	<p>開質問状（その2）（12.15）、「公開質問状（その3）」（12.26）を送る</p> <p>1990年（平成2年）</p> <p>1.16 成田新法に基づき天神峰現地闘争本部を封鎖（～17）</p> <p>1.30 江藤運輸大臣、反対同盟熱田派農民と現地で公開会談</p> <p>11.1 地域振興連絡協議会発足</p> <p>11.27 成田新法に基づき横堀団結の砦を除去</p> <p>12.17 地域振興連絡協議会、鎮魂祭を実施</p> <p>12.20 東山裁判、一審判決を破棄、死因をガス弾と認定</p> <p>1991年（平成3年）</p> <p>4.9 地域振興連絡協議会は運輸省、空港公団、千葉県並びに反対同盟3派（熱田派、小川派、北原派）に公開シンポジウム参加を呼びかけ</p> <p>” 反対同盟熱田派、シンポジウム参加のための5条件を地域振興連絡協議会に申し入れ</p> <p>4.10 運輸省、空港公団、千葉県はシンポジウム参加を地域振興連絡協議会に回答</p> <p>4.11 反対同盟北原派は「シンポジウムに協力する脱落派を徹底糾弾する」と声明</p> <p>4.20 反対同盟小川派は「シンポジウムに小川派全員が参加しないことを決定した」と声明</p> <p>5.15 地域振興連絡協議会、学識経験者6名に空港問題解決の調停役を依頼（6.18隅谷調査団として発足）</p> <p>5.28 村岡運輸大臣、地域振興連絡協議会に、いかなる状況のもとにおいても強制的手段をとらないことを確約する旨文書回答</p> <p>6.17 反対同盟熱田派、シンポジウムへの参加を決定</p> <p>7.13 公開シンポジウムを開催・運営する「シンポジウム運営委員会」発足</p> <p>8.10 二期用地内で地元有志による「三里塚・都はるみ・星空コンサート」開催</p> <p>11.6 反対同盟熱田派「政府は5.28大臣声明を再度確認し、強制収用放棄を保証せよ」と声明</p>	<p>1990年（平成2年）</p> <p>12.29 運輸大臣に村岡兼造就任</p> <p>1991年（平成3年）</p> <p>11.5 宮沢喜一内閣発足、運輸大臣に奥田敬和就任</p> <p>11.29 第6次空港整備5カ年</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>1992年（平成4年）</p>	<p>11.15 奥田運輸大臣「今年5月に運輸大臣回答で平和的話し合い解決を確約しており、関係閣僚の支援を得て、平和的解決に誠心誠意取り組みたい」と閣議報告 " 反対同盟熱田派、シンポジウム参加を重ねて表明 11.21 第1回成田空港問題シンポジウム開催 12.3 第2回シンポジウム開催</p> <p>1992年（平成4年） 1.17 第3回シンポジウム開催 2.20 第4回シンポジウム開催 3.19 第5回シンポジウム開催 5.19 第6回シンポジウム開催（事業認定問題についての調査団所見） 7.16 第7回シンポジウム開催 7.30 第8回シンポジウム開催 9.29 第9回シンポジウム開催 10.28 第10回シンポジウム開催</p>	<p>計画閣議決定</p> <p>1992年（平成4年）</p>
<p>12.6 第2旅客ターミナルビル供用開始</p>	<p>12.15 第11回シンポジウム開催</p>	<p>12.12 運輸大臣に越智伊平就任</p>
<p>1993年（平成5年） 2.2 新管制塔供用開始（高さ87.3m） 2.5 開港以来の航空旅客数2億人達成</p>	<p>1993年（平成5年） 2.9 第12回シンポジウム開催 3.23 第13回シンポジウム開催 4.27 第14回シンポジウム開催（反対同盟熱田派、3項目を提案） 5.24 第15回シンポジウム開催（3項目を受けシンポジウム終結に向けての調査団所見） 7.26 シンポジウム運営委員会開催、新しい協議の場の名称を「成田空港問題円卓会議」に決定 9.20 第1回成田空港問題円卓会議開催 10.19 第2回円卓会議開催 12.9 第3回円卓会議開催</p>	<p>1993年（平成5年）</p> <p>8.6 細川護熙連立内閣発足、運輸大臣に伊藤茂就任、自民単独政権終わる</p>
<p>1994年（平成6年）</p>	<p>1994年（平成6年） 1.25 第4回円卓会議開催 2.1 空港と地域の共生を考える勉強会、ミュンヘン空港の問題について 2.22 第5回円卓会議開催（運輸省「空港と地域との共生に関する基</p>	<p>1994年（平成6年）</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>4.1 「地域相談センター」開設</p> <p>11.1 空港公園、円卓会議での合意事項を実現していくため組織改正を行い、企画室内に地域共生室と地域環境管理室を新たに設置</p> <p>1995年（平成7年）</p> <p>1.1 貨物駐車場ビル供用開始</p> <p>1.20 佐原テレビ中継局開局</p> <p>2.28 江戸崎テレビ中継局開局</p> <p>3.1 「空港情報センター」、「地域相談連絡室」開設</p> <p>3.16 下総光テレビ中継局開局</p> <p>3.22 「成田空港周辺緑化基本計画」決定</p>	<p>本的な考え方について」発表）</p> <p>3.1 円卓会議運営委員会主催による空港周辺現地調査</p> <p>3.29 第6回円卓会議開催</p> <p>4.18 空港と地域の共生を考える勉強会</p> <p>4.26 第7回円卓会議開催（運輸省「共生を目指した今後の成田空港の空港づくりの考え方」発表）</p> <p>5.26 第8回円卓会議開催</p> <p>6.23 第9回円卓会議開催</p> <p>6.27 ミュンヘン空港視察団出発（～7.3）</p> <p>7.26 第10回円卓会議開催（反対同盟、地域再建論「児孫のために自由を律す」を提案、これに対し運輸省と千葉県から考え方発表）</p> <p>8.24 空港と地域の共生を考える勉強会、ミュンヘン空港視察報告</p> <p>9.13 第11回円卓会議開催（運輸省、横風用滑走路の整備を平行滑走路の整備と切り離すことなどの最終提案）</p> <p>10.11 第12回円卓会議開催（隅谷調査団から所見「成田空港問題円卓会議の終結にあたって」が示され、参加者のすべてがこの見解を会議の結論とすることで円卓会議は終結）</p> <p>12.10 第17回円卓会議拡大運営委員会を開催</p> <p>1995年（平成7年）</p> <p>1.10 第1回成田空港地域共生委員会開催</p> <p>1.24 第1回「地球的課題の実験村」構想具体化検討委員会開催</p> <p>” シンポジウム、円卓会議不参加の小川派の1人から総理・運輸大臣あてに、これまでの空港づくりに反省を求める書簡が送付される。これに対する運輸大臣の返書を受けて、小川派の一部、反対運動の終了を表明</p> <p>3.1 「共生委員会住民相談所」開設</p> <p>3.22 第2回「実験村」検討委員会開催</p> <p>3.28 第2回共生委員会開催</p>	<p>4.26 中華航空エアバス、名古屋空港で着陸に失敗、炎上</p> <p>4.28 羽田孜連立内閣発足、運輸大臣に二見伸明就任</p> <p>6.13 航空審議会答申、我が国航空企業の競争力向上のための対策、次世代の航空保安システムのあり方について</p> <p>6.30 新千歳空港、日本初の24時間空港としてスタート</p> <p>9.4 関西国際空港開港</p> <p>1995年（平成7年）</p> <p>1.17 阪神・淡路大震災発生、死者6000人超</p> <p>3.9 日米韓3国が朝鮮半島エネルギー開発機構（KEEDO）設立協定に調印</p> <p>3.20 地下鉄サリン事件発生、死者11人</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>4.8 開港以来の航空旅客数 2億5000万人達成 4.10 「芝山水辺の里」(上流部) 供用開始</p>	<p>5.9 第3回「実験村」検討委員会開催 5.25 第3回共生委員会開催</p> <p>6.7 第2旅客ターミナルビル南側エプロン部分の一坪共有地(いわゆる「梅の木共有地」)所有権を空港公団がすべて取得(1995.12よりエプロンとして供用開始)</p> <p>7.4 第4回「実験村」検討委員会開催 7.20 第4回共生委員会開催</p> <p>8.22 成田市芦田地区8戸と集団移転補償契約締結 8.29 第5回「実験村」検討委員会開催</p> <p>10.5 第6回「実験村」検討委員会開催 10.12 第5回共生委員会開催</p> <p>11.2 第7回「実験村」検討委員会開催</p> <p>12.7 第8回「実験村」検討委員会開催 12.21 第6回共生委員会開催</p>	<p>5.15 地下鉄サリン事件でオウム真理教松本智津夫(教祖名麻原彰晃)を逮捕 5.5 中国が地下核実験を実施</p> <p>7.7 日米航空交渉閣僚級・次官級協議を開催、以遠権問題について決着 7.8 運輸大臣に平沼赳夫就任</p> <p>9.4 沖縄で3米兵による少女暴行事件発生</p> <p>11.4 ラビン・イスラエル首相暗殺 12.22 国内航空普通運賃について幅運賃制度導入</p>
<p>1996年(平成8年)</p>	<p>1996年(平成8年) 1.19 政府と熱田一氏との間で争われていた「横堀団結の砦」除去の際の作物被害の損害賠償請求事件について和解成立 1.24 第9回「実験村」検討委員会開催</p> <p>2.15 第7回共生委員会開催 2.21 第10回「実験村」検討委員会開催</p>	<p>1996年(平成8年) 1.11 橋本龍太郎内閣発足、運輸大臣に亀井善之就任</p>
<p>3.28 ILSカテゴリー 運用開始及びストップ・パーシステム供用開始</p> <p>4.1 輸入貨物仕分基準解消 " 第4貨物ビル及び天浪トラック待機場、車両呼出システム供用開始 " 四街道石油ターミナルビル供用開始</p> <p>7.1 空港公団本社が成田空港内に移転、空港周辺の方々8284世帯へ移転の挨拶を行う(~9)</p>	<p>3.28 第11回「実験村」検討委員会開催</p> <p>4.25 第8回共生委員会開催</p> <p>5.16 第12回「実験村」検討委員会開催</p> <p>6.6 第9回共生委員会開催</p> <p>7.18 空港予定地(天神峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結 " 第13回「実験村」検討委員会開催 7.19 第10回共生委員会開催</p>	<p>3.23 台湾初の総統直接選挙で李登輝氏圧勝</p> <p>4.17 橋本首相がクリントン大統領と会談、日米防衛協力強化への宣言発表</p> <p>6.13 福岡空港においてガルーダ・インドネシア航空機事故</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>9.11 空港公団創立30周年、新しい愛称「NAA」・シンボルマークを披露</p> <p>10.1 「芝山水辺の里」(下流部)供用開始</p>	<p>8.20 第11回共生委員会開催</p> <p>9.26 第14回「実験村」検討委員会開催</p> <p>10.31 第12回共生委員会開催 運輸省より「今後の成田空港と地域との共生に関する基本的考え方」が提示される</p> <p>11.12 空港予定地(木の根地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>11.27 空港予定地(東峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>12.11 運輸省、「今後の成田空港と地域との共生、空港整備、地域整備に関する基本的考え方」を公表</p> <p>12.12 第15回「実験村」検討委員会開催</p> <p>12.19 第13回共生委員会開催</p>	<p>11.7 第2次橋本内閣発足、運輸大臣に古賀誠就任</p> <p>12.11 第7次空港整備5カ年計画閣議決定</p> <p>12.17 ペルーで武装ゲリラが日本大使館公邸を占拠</p>
<p>1997年(平成9年)</p>	<p>1997年(平成9年)</p> <p>1.23 第16回「実験村」検討委員会開催</p> <p>2.14 第14回共生委員会開催</p> <p>3.17 第17回「実験村」検討委員会開催</p> <p>4.17 第15回共生委員会開催</p> <p>5.15 第18回「実験村」検討委員会開催</p> <p>5.23 空港予定地(東峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>6.19 第16回共生委員会開催</p> <p>7.10 第19回「実験村」検討委員会開催</p> <p>7.28 (財)成田空港周辺地域共生財団の設立</p> <p>8.28 第17回共生委員会開催</p> <p>9.16 熱田一氏・下山久信氏と横堀墓地訴訟の和解成立</p>	<p>1997年(平成9年)</p> <p>3.27 東京国際空港新C滑走路供用開始</p>
<p>4.3 開港以来の航空旅客数3億人達成</p> <p>4.21 NAAビル1階に「NAA情報コーナー」を開設</p> <p>6.1 地域と共生する空港づくり推進体制として、総裁を本部長とする「地域共生推進本部」と「空港づくり推進本部」を設置、併せて「北地域相談センター」を開設</p> <p>7.25 空港公団と韓国空港公団(KAA)の間で姉妹空港の締結</p>	<p>4.17 第15回共生委員会開催</p> <p>5.15 第18回「実験村」検討委員会開催</p> <p>5.23 空港予定地(東峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>6.19 第16回共生委員会開催</p> <p>7.10 第19回「実験村」検討委員会開催</p> <p>7.28 (財)成田空港周辺地域共生財団の設立</p> <p>8.28 第17回共生委員会開催</p> <p>9.16 熱田一氏・下山久信氏と横堀墓地訴訟の和解成立</p>	<p>6.28 神戸市須磨区小学生殺害事件で、中学3年生を逮捕</p> <p>7.1 香港が中国に返還</p> <p>8.31 ダイアナ元英皇太子妃が自動車事故死</p> <p>9.11 運輸大臣に藤井孝男就任</p> <p>9.23 日米安全保障協議委員会で日本が協力すべき新ガイドラインを決定</p>
<p>10.13 開港以来の国際線航空貨物取扱量2000万トン達成</p>	<p>10.1 (財)成田空港周辺地域共生財団事業開始</p> <p>10.16 空港予定地(天神峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>10.23 第18回共生委員会開催</p>	<p>10.8 金正日書記、朝鮮労働党総書記に就任</p>
<p>11.7 航空科学博物館に「NAA空港コーナー」</p>	<p>11.7 空港予定地(天神峰地区)内用</p>	

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>設置</p> <p>1998年(平成10年)</p> <p>1.22 芝山鉄道線建設工事起工</p> <p>2.1 第1旅客ターミナルビル第1サテライトの供用開始</p> <p>4.1 「環境情報公開システム」を空港情報センター・北地域相談センター・NAA情報コーナーに設置</p> <p>〃 「三里塚さくらの丘」の供用開始</p> <p>〃 APU使用制限の実施</p> <p>4.25 発着枠を1日360回から370回へと改定</p> <p>6.1 空港と地域との共生の推進に関する諸施策をより積極的に実施するための、「地域共生部」を設置</p> <p>6.16 エンジン試運転時の騒音を軽減するハンガータイプの新消音施設NRH(ノイズリダクションハンガー)建設工事着工</p> <p>10.10 空港公団とニューヨーク・ニュージャージーポートオーソリティの間で姉妹空港の締結</p>	<p>地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>12.25 第19回共生委員会開催</p> <p>1998年(平成10年)</p> <p>2.19 第20回共生委員会開催</p> <p>3.10 第20回「実験村」検討委員会開催</p> <p>4.7 第21回「実験村」検討委員会開催</p> <p>4.11 成田市幡谷地区住民28名を対象に航空機騒音実体験調査を実施(以降、随時実施)</p> <p>4.16 第21回共生委員会開催</p> <p>5.1 第22回「実験村」検討委員会開催</p> <p>最終報告書「若い世代へ - 農の世界から地球の未来を考える」を発表、解散</p> <p>5.18 隅谷調査団、「成田空港問題は社会的に解決され、今後関係者が進んでいく道筋が理想的にも示されるところとなった」との所見を発表</p> <p>〃 空港予定地(木の根地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>5.19 運輸大臣、「成田空港問題の話し合い解決について」を閣議報告</p> <p>5.27 空港公団、「エコ・エアポート基本構想 - 実験村の理念を踏まえた成田空港の新しい姿 - 」を発表</p> <p>6.7 空港予定地(木の根地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>6.22 第22回共生委員会開催</p> <p>7.15 運輸省・空港公団、「地域と共生する空港づくり大綱」を発表</p> <p>8.20 関係市町村への平行滑走路供用開始後の標準的な飛行コースの説明会(千葉県34市町村)</p> <p>8.28 関係市町村への平行滑走路供用開始後の標準的な飛行コースの説明会(茨城県22市町村)</p> <p>9.21 第23回共生委員会開催</p> <p>10.5 東峰地区区民・関係人一同(8名)による声明が発表される</p>	<p>12.12 第7次空港整備5カ年計画の2年延長閣議決定</p> <p>12.20 我が国初の航空機の製造検査認定事業場開設</p> <p>1998年(平成10年)</p> <p>2.7 長野冬季五輪開幕</p> <p>3.14 日米航空交渉最終合意</p> <p>3.31 中部国際空港の設置及び管理に関する法律公布</p> <p>5.1 中部国際空港(株)設立</p> <p>5.11、13 インドが24年ぶりに核実験実施</p> <p>6.10 日本初出場のサッカーW杯フランス大会開幕</p> <p>7.28 スカイマークエアラインズに対して羽田 - 福岡間の免許付与</p> <p>7.30 小淵恵三内閣発足、運輸大臣に川崎二郎就任</p> <p>8.31 北朝鮮、日本列島越しに新型ミサイル発射実験実施</p> <p>10.26 北海道国際航空に対して羽田 - 札幌間の免許付与</p> <p>10.27 ドイツ、シュレーダー</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
11. 2 「茨城地域相談センター」開設	11. 16 第24回共生委員会開催	政権発足
12. 23 開港以来の航空機発着回数200万回達成	12. 16 「地域と共生する空港づくり大綱」最終とりまとめ 12. 22 芝山町大里住母家地区の住民と集団移転に係る補償契約及び代替地譲渡契約を締結	
1999年(平成11年)	1999年(平成11年)	1999年(平成11年) 1. 1 欧州経済通貨同盟(EMU)発足、単一通貨ユーロ誕生
3. 16 第1旅客ターミナルビル北ウイング・中央ビル新館供用開始(南ウイング閉鎖)		3. 24 コソボ交渉決裂で、NATOがユーゴ空爆
4. 2 「朝倉やすらぎの杜」供用開始 4. 27 新消音施設NRH完成	4. 14 空港予定地(天神峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結 4. 16 空港周辺商工業経済団体連絡協議会、空港公団総裁に平行滑走路早期完成の要望書を提出 4. 19 成田空港早期完成促進協議会、10万人署名活動(最終的に26万人の署名を運輸大臣に提出)	4. 11 東京都知事に石原慎太郎当選
5. 10 平行滑走路2000年度完成目標断念を発表	5. 17 第27回共生委員会開催 5. 21 運輸大臣、空港公団総裁に成田空港の平行滑走路の整備に関する新たな方針を示す	
6. 14 成田市長田地区、芝山町香山新田地区における山林の里山的整備供用開始		6. 4 「航空法の一部を改正する法律」公布
	7. 26 第28回共生委員会開催	7. 9 関西国際空港の2期事業着工 7. 23 全日本空輸61便ハイジャック事件発生
	8. 6 栗源町住民で組織する「栗源5000人会」、過激派排除の申し入れを空港公団等に提出 8. 24 芝山町大字香山新田字猪穴台87-2の一坪共有地の所有権すべてを取得	9. 21 台湾中部大地震発生 9. 30 東海村核燃料施設で臨界事故発生
9. 3 平行滑走路等の整備に関する工事实施計画の変更認可申請		
10. 12 「太陽光発電システム」運用開始 10. 18 成田空港の暫定平行滑走路の整備に関する工事实施計画の変更認可申請に伴う公聴会開催(成田国際文化会館)	10. 14 芝山町菱田辺田地区の住民(11戸)と集団移転に係る補償契約及び代替地譲渡契約を締結	10. 5 運輸大臣に二階俊博就任 10. 6 空港処理容量検討委員会、最終報告を発表
	11. 8 第29回共生委員会開催	
12. 1 平行滑走路の整備に関する工事实施計画の変更申請が認可 12. 3 暫定平行滑走路工事着工	12. 20 暫定平行滑走路南側の航空保安施設用地所有者と土地売買契約を締結	
2000年(平成12年)	2000年(平成12年) 1. 31 第30回共生委員会開催	2000年(平成12年)
3. 31 「成田市さくらの山」完成		3. 23 東京国際空港新B滑走路供用開始
4. 1 コジェネレーションシステム導入・運用開始 4. 4 航空科学博物館内にエコ・エアポートコ	4. 10 第31回共生委員会開催	4. 5 第1次森喜朗内閣発足

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>ーナー設置</p> <p>4.10 「飛行コース公開システム」運用開始</p> <p>4.17 暫定平行滑走路東峰地区の現場作業開始</p> <p>4.19 暫定平行滑走路北側地区の現場作業開始</p> <p>6.20 芝山鉄道工事計画の変更申請が認可</p> <p>7.7 第1旅客ターミナルビル第2サテライト供用開始</p> <p>10.1 貨物管理ビル供用開始</p>	<p>6.5 第1回今後の共生委員会のあり方に関する検討委員会開催</p> <p>7.17 第32回共生委員会開催</p> <p>7.25 空港予定地(東峰地区)内用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>8.30 第2回共生委員会のあり方検討委員会開催</p> <p>10.16 第33回共生委員会開催</p> <p>11.13 第3回共生委員会のあり方検討委員会開催</p> <p>12.16 第34回共生委員会開催</p>	<p>6.13 韓国の金大中大統領、北朝鮮金正日総書記と首脳会談</p> <p>7.1 大阪(関空・伊丹)ー東京間シャトル便運航開始</p> <p>7.4 第2次森内閣発足、運輸大臣に森田一就任</p> <p>7.21 沖縄サミット開幕</p> <p>7.25 パリ郊外で超音速旅客機コンコルド墜落、113人死亡</p> <p>8.19 中部国際空港着工</p> <p>9.26 第1回首都圏第3空港調査検討会を開催</p> <p>9.15 第27回五輪シドニー大会開幕</p> <p>10.10 白川英樹筑波大名誉教授、ノーベル化学賞受賞</p> <p>12.5 運輸大臣に扇千景就任</p> <p>12.13 米大統領選で共和党ブッシュ候補当選確定</p>
<p>2001年(平成13年)</p> <p>2.5 J誘導路運用開始</p> <p>2.6 第1回成田空港国内線充実対策検討会開催</p> <p>2.16 開港以来の航空旅客数4億人達成</p> <p>2.28 空港周辺11市町村の首長と23市町村議会、成田空港南側ゲートの早期開設を求めた要望書を中村空港公団総裁に提出</p> <p>3.22 成田空港エコ・ステーション供用開始</p> <p>4.1 整備地区暫定貨物上屋供用開始</p> <p>4.2 東峰地区切廻し道路供用開始</p> <p>4.19 新A-8高速脱出誘導路供用開始</p> <p>5.11 「航空機騒音障害防止特別地区」都市計画決定</p> <p>5.22 第1回成田空港アクセス充実検討会開催</p> <p>6.2 第1回成田空港国内線需要創出検討会開催</p> <p>6.16 東峰神社立木伐採</p>	<p>2001年(平成13年)</p> <p>2.5 小泉英政氏(成田市東峰在住)との和解成立</p> <p>2.20 第35回共生委員会開催</p> <p>3.23 地域と空港の共生に係る協定書締結</p> <p>5.21 第36回共生委員会開催</p> <p>7.23 第37回共生委員会開催</p>	<p>2001年(平成13年)</p> <p>1.6 国土交通省発足</p> <p>1.31 日本航空907便ニアミス事故発生</p> <p>2.16 東京国際空港の深夜早朝時間帯の国際便チャーター運航開始</p> <p>2.9 ハワイ・オアフ島沖で、実習船えひめ丸と米原潜が衝突、沈没</p> <p>4.1 (独)航空大学校発足</p> <p>4.26 第1次小泉純一郎内閣発足、運輸大臣に扇千景留任</p> <p>6.8 大阪附属池田小で児童殺傷事件発生、8人死亡</p> <p>8.28 7月の失業率が調査開始以来初の5%台</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>9.3 中村空港公団総裁、「暫定平行滑走路の工事完成と供用前倒し」について副国土交通大臣に報告</p> <p>9.11 米国同時多発テロにより引き返し便、ダイバート便、欠航便相次ぐ(～14)</p> <p>10.9 航空会社のターミナル再配置最終案を公表</p> <p>10.15 暫定平行滑走路関連施設の飛行検査実施(～12月下旬)</p> <p>12.18 特殊法人等整理合理化計画発表</p>	<p>11.19 第38回共生委員会開催</p>	<p>9.11 米国同時多発テロ事件発生、これに伴う航空保安強化策を順次実施</p> <p>9.10 農水省、日本初の「牛海綿上脳症(BSE)」の牛を確認</p> <p>10.1 航空・鉄道事故調査委員会設置</p> <p>10.7 米英がテロ報復でアフガニスタン空爆開始</p> <p>12.1 雅子皇太子妃、敬宮愛子さま出産</p> <p>12.19 羽田再拡張、B滑走路平行案で決定</p>
<p>2002年(平成14年)</p> <p>1.17 暫定平行滑走路の完成検査合格及び供用開始日確定</p> <p>3.18 防音工事済み住宅における経年変化の実態調査実施(～6月末)</p> <p>4.1 「音の体験ルーム」設置(空港情報センター・航空科学博物館)</p> <p>4.18 暫定平行滑走路供用開始</p> <p>4.25 成田高速鉄道アクセス(株)設立</p> <p>5.27 ターミナル間連絡バスに天然ガス車両導入</p> <p>6.20 第6貨物ビル供用開始</p> <p>7.5 成田新高速鉄道に係る鉄道事業許可</p>	<p>2002年(平成14年)</p> <p>2.4 第39回共生委員会開催</p> <p>3.26 航空保安施設用地所有者と土地売買契約を締結</p> <p>4.16 成田空港圏自治体連絡協議会が国・空港公団及び千葉県に対し「地域と空港の共生」実現に向けての要望書を提出</p> <p>5.20 第40回共生委員会開催</p> <p>7.29 第41回共生委員会開催</p>	<p>2002年(平成14年)</p> <p>5.8 北朝鮮を脱出した一家5人が中国・瀋陽の日本総領事館に駆け込み</p> <p>5.31 日韓共催のサッカーW杯開幕</p> <p>6.25 エア・ドゥが東京地裁に民事再生手続き開始の申立て</p> <p>8.1 スカイネットアジア航空が、羽田-宮崎路線に新規参入</p> <p>9.17 小泉首相が訪朝、金正日総書記と会談し、「日朝平壤宣言」に署名</p>
<p>10.7 第12回ACI世界総会及び太平洋地域部会総会開催(～11)</p> <p>10.16 南ゲート(第6ゲート)が入場ゲートとして供用開始</p> <p>10.27 芝山鉄道開業 芝山千代田駅～東成田駅間(2.2km)</p> <p>12.1 暫定平行滑走路南端誘導路上にてJASとDHL機の接触事故発生</p> <p>12.16 第1旅客ターミナルビル第3サテライト供用開始</p>	<p>11.13 木の根地区不法占拠家屋の千葉地裁佐倉支部による受渡執行作業後、建物取壊し作業を実施</p> <p>11.18 第42回共生委員会開催</p> <p>11.25 横堀要塞の取壊し撤去作業を底地地権者が実施(～27)</p> <p>12.24 一坪共有地に対する共有物分割訴訟(8件)を千葉地裁へ提起</p>	<p>10.2 JALとJASが、共同持株会社「日本航空システム」を設立し、経営統合</p> <p>10.15 北朝鮮拉致被害者5人が帰国</p> <p>11.8 国連安保理、イラク大量破壊兵器査察決議1441採択</p> <p>12.6 「今後の空港及び航空保安施設の警備に関する方策について」交通政策審議会航空分科会答申</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
<p>2003年（平成15年）</p> <p>1.20 新東京国際空港の改称「成田国際空港」及び新会社「成田国際空港株式会社」の名称について扇国土交通大臣へ要望書を提出</p> <p>2.28 新東京国際空港公団民営化に関する覚書締結（四者協議会）</p> <p>3.3 場外放水路に寄付募集した170本の「さくらの苗木」を植樹（～20）</p> <p>3.11 「成田国際空港株式会社法案」閣議決定</p> <p>3.12 「三里塚さくらの丘」新展望台供用開始</p> <p>4.2 「南三里塚遊歩道」供用開始</p> <p>4.14 天浪地区貨物上屋供用開始</p> <p>4.24 「成田空港アクセス交通実態調査結果（速報）」発表</p> <p>5.20 開港25周年</p> <p>6.13 SARSの影響に伴う空港内事業者に対する支援措置を実施（6～8月）</p> <p>7.11 第156回通常国会にて「成田国際空港株式会社法」成立</p> <p>7.31 南部第1・第2貨物ビル供用開始</p> <p>10.30 C誘導路の一部供用開始 " 中期総合経営計画草案（2004～06年度）発表</p> <p>11.16 航空燃料輸送、1億klを達成</p> <p>11.27 成田国際空港(株) 新ロゴ決定</p> <p>2004年（平成16年）</p> <p>2.2 場外放水路「飛び石」設置</p> <p>2.19 D誘導路の一部供用開始</p>	<p>2003年（平成15年）</p> <p>2.5 第43回共生委員会開催</p> <p>3.26 成田市天神峰字奥ノ台29-5の一坪共有地の所有権すべてを取得し、本件一坪共有地に対する共有物分割訴訟1件を取り下げ</p> <p>5.23 第44回共生委員会開催</p> <p>7.28 第45回共生委員会開催</p> <p>8.19 一坪共有地に対する共有物分割訴訟1件について勝訴判決が確定</p> <p>11.17 第46回共生委員会開催</p> <p>12.5 東峰神社に係る所有権移転登記手続等請求事件について、東峰神社底地が原告らによって構成されている東峰地区の総有であることを認める内容の和解が成立</p> <p>2004年（平成16年）</p> <p>2.6 第47回共生委員会開催</p>	<p>12.6 国際拠点空港に係る民営化の方針が閣議決定</p> <p>2003年（平成15年）</p> <p>2.1 ミスペースシャトル「コロンビア」が空中分解</p> <p>3.31 新型肺炎（SARS）が香港で爆発的感染判明</p> <p>4.1 日本郵政公社発足</p> <p>6.6 有事関連法成立</p> <p>7.18 「航空法の一部を改正する法律」公布、施行</p> <p>7.26 イラク復航支援特別措置法成立</p> <p>8.1 「羽田空港再拡張事業の事業スキームについて」発表</p> <p>8.14 オレンジカーゴ航空運送事業許可</p> <p>8.27 北朝鮮の核問題で日米中韓露による6カ国協議</p> <p>9.22 運輸大臣に石原伸晃就任</p> <p>10.1 空港周辺整備機構独立行政法人化</p> <p>11.30 羽田一金浦チャーター便運航開始</p> <p>11.9 第43回衆院選挙、民主党躍進</p> <p>11.19 第2次小泉内閣発足</p> <p>12.13 米軍、イラクのフセイン元大統領拘束</p> <p>2004年（平成16年）</p> <p>1.12 農水省と山口県が高病原性鳥インフルエンザ（H5N1型）検出発表</p> <p>2.9 東京国際空港再拡張後の飛行ルート案を提示</p>

空港建設・運営の経過	地元地域の動向	航空・社会一般
3.22 空港公団職員、空港周辺地域住民に対して挨拶回り、記念品配布開始 3.23 成田国際空港(株)創立総会と第1回取締役、監査役会 4.1 成田国際空港(株)発足	3.12 天神峰現地闘争本部の建物収去土地明渡請求訴訟を提起	3.31 「東京国際空港における緊急整備事業の円滑な推進に関する特別措置法」公布、施行

年表編成のための参考資料・出典

- ・成田空港～その役割と現状～(NAA)
- ・数字でみる航空2004(国土交通省航空局)
- ・読売年鑑2005(読売新聞社)
- ・成田の空と大地～闘争から共生への途～(岩波書店)
- ・成田空港問題円卓会議記録集(成田空港問題円卓会議記録集編集委員会)

編集委員会

委員長 山本雄二郎（成田空港地域共生委員会代表委員）
委員 安蒜 榮（成田空港地域共生委員会）
高山 守正（成田空港地域共生委員会）
田村 聖子（成田空港地域共生委員会）
高橋恵美子（成田空港地域共生委員会）
吉田 昭二（国土交通省 航空局飛行場部）
三宅 正寿（国土交通省 航空局飛行場部）
玉井日出夫（千葉県 総合企画部）
丸山 隆（千葉県 総合企画部）
後藤 幸雄（成田国際空港株式会社 地域共生部）
行方 正幸（成田国際空港株式会社 地域共生部）
勝田 健一（成田国際空港株式会社 地域共生部）
奥田 尚志（成田国際空港株式会社 地域共生部）
堀田 誉（成田国際空港株式会社 地域共生部）
西村 和泰（成田国際空港株式会社 地域共生部）

編集協力

（有）アスク

成田空港問題円卓会議合意事項点検記録集

～共生をめざした10年間の軌跡～

発行日 2005(平成17)年11月30日

発行者 成田空港地域共生委員会
〒286-0111 千葉県成田市三里塚御料牧場1-2
電話 0476(32)2035

印刷 奥村印刷株式会社
